



寒波や大雪に見舞われた2月も終わり、春は少しずつ近づいてきました。これからは厄介な花粉症の季節です。

いろいろな組織や団体で、事業内容や役員体制など次年度に向けた検討準備が進んでいます。

町内会は誰のためにあるの？

2月7日、区長部会開催に先立ち、町区長研修会を開催し、町内会は本来どうあるべきか、原点を考えていただく機会を設けました。

昨今、町内会に対する考え方が変化し、町内会加入率が減っていることなど町内会運営に様々な問題が発生しており、町区長の悩みのタネとなっています。その解決の一助になればと、市自治連合会の地域支援アドバイザーを招き、無関心層と言われる若い世代でも町内会の防災活動に期待していることや、地区民のふれあいを求めていることなどアンケート結果に表れた意識の紹介、さらに、町内会運営に関わる問題点への対応に向けたヒントをお話いただきました。

町区それぞれに事情が異なりますが、町区役員をはじめ、会員の皆さんで思いを共有しながら取組みを進めることが求められているようです。

*「町内会加入率」
=町内会加入世帯数/住民基本台帳登録の世帯数

自組織見直しは最終段階です

米里地区の地域づくりを進める中核となる「米里地区自治会」と「よねさとづくり協議会」を整理統合し住民の皆さんにわかりやすい組織とするべく、役員数や業務の見直しを図っています。

昨年1月に設置した検討委員会では、区長部会やよねさとづくり協議会全体会での意見も取り入れながら議論を進め、これまで8回の検討委員会での協議を経て、集約してきました。

3月22日に開催予定の自治会委員総会で提案される規約改正案が可決採択されると、4月から新たな組織としてスタートすることになります。



研修会の様子



↑「よねさとづくり通信」

大路川流域治水の取組み

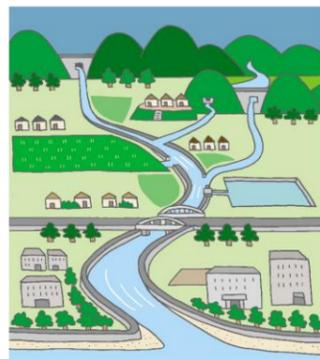
2月10日、第6回大路川流域治水協議会が美保南地区公民館で開催されました。行政担当者や関係する8地区の代表者等が集まり協議する中で、河川整備だけでなく、田んぼダムや雨水貯留タンク、流域治水ビジョンなどさまざまな取組みが行われています。

来年度は、これまでも行われてきた河道掘削、意見交換会や防災学習の実施など従来からの取組みのほか、新たな雨水貯留タンク補助制度の運用開始なども報告されました。

参加者からは、雨水貯留タンクの有効性についての意見や、上流域と下流域の交流が大切ではないかといった意見もありました。

米里地区でも意見交換会が開催されますので、その際にはぜひご参加ください。

*「流域治水」とは、水害が頻発化・激甚化する中で、流域のあらゆる関係者が協働してさまざまに取り組むものです。



流域治水模型の実演

町内会だより ~久末~

久末地区は、米里校区の南東側に位置し、水田・果樹園等が広がる自然豊かな地域です。現在35世帯の方が暮らしています。

今年2026年は暦どおりに大寒から2月上旬にかけ、寒さと6時間に37cmの大雪の日もあり、地区の住民の方は、通学路や生活道路の確保にと除雪作業に精を出されています。そして、この雪が、堤に水を蓄え地区の水田を潤す大切な水になります。

さて、久末地区では久末集落の東側の傾斜地と旧水田を利用して梨の栽培も多く、二十世紀梨はもちろん、新甘泉等の赤梨などおいしい梨を栽培されています。また、毎年5月に井手ざらい、6月には集落の真ん中を流れる大路川の掃除を行い、地域保全に努めています。(久末区長 金山和裕)



久末地区内除雪



七谷堤

4月から自転車に「青切符」

2月15日、交通安全委員の皆さんが集まる中、蔵田駐在所の松谷巡査より「地域で行う交通安全と防犯活動」についてお話いただきました。

まず、4月1日から自転車に「青切符」(交通反則通告制度)が導入されるのでその主なポイントを説明していただきました。16歳以上の自転車運転者が信号無視や一時不停止などの比較的軽微な交通違反をした場合、反則金が科されるようになります。

そして、深刻な社会問題となっている特殊詐欺、特に警察官をかたるニセ警察詐欺やSNSを通じたロマンス詐欺について、具体の被害事例とともにお話いただきました。

委員の皆さんに気を付けていただくことはもとより、ご家族、近所の方たちに折にふれて呼びかけていただくようお願いしました。

皆さんもくれぐれも気を付けましょう。



チラシを手に

青切符の対象となる主な自転車の反則行為と反則金		
 携帯電話使用 (ながら運転) 1万2000円	 2人乗り 3000円	 信号無視 6000円
 2台以上の横並び走行 3000円	 逆走や歩道走行 6000円	

(注) 道路交通法施行令改正案に基づく